

# 令和3年度 研究のまとめ

学校名：尾道市立向東中学校  
 学校規模：8学級 182名 (R4. 2月末現在で記入)  
 研究教科・領域：道徳

## 1 研究の概要

### (1) 研究テーマ・サブテーマ

主体性を育む道徳教育の創造  
 ～対話的な学びを取り入れた道徳の授業作り～

### (2) 研究のねらい

#### ① 研究のねらい

- 道徳的価値に迫る発問により、対話的な学びを促し、生徒と教師がともに考え議論する授業づくりを進める。
- 道徳の授業で対話的な学び方を、各教科の指導にも生かしていく。
- 道徳教育の重点項目を中心とし、カリキュラム・マネジメントの観点で教科等、総合的な学習の時間、特別活動を機動的につなぐ。
- 小中連携や、道徳の授業で人材の活用を通して、地域と小中学校が協働して豊かな心を育てる。

#### ② 研究テーマの定義 (本校における「主体性」とは)

本校における「主体性」とは、次の2点をねらいとする。

- ① 目標に向かって積極的かつ意欲的に行動する力の育成
- ② 自ら考え行動する自己指導能力の育成

#### ③ サブテーマの定義 (本校における「対話」とは)

本校における「対話」とは、生徒同士で意見を交流し、考えを深める対話はもちろん自分の経験等に基づいて考える自己内対話も含まれる。

### (3) 研究反説

主体性を育む道徳教育を行うためには、教師はもちろんのこと生徒が「楽しく、ためになる」と感じられる道徳の授業が必要である。生徒指導の三機能を活かし、落ち着いた学習環境の中でお互いの意見を主張できるクラスを土台とした対話的な学びの場を導入する。そうすることで、生徒の意見やその根拠を交流・議論する過程で新たな視点を獲得したり、幅広い視野で物事を考える力が付くなど、より道徳的価値に迫り、考え議論する道徳授業になると考える。

さらに、授業の終末で「今後の生活に活かしたいこと」など今後に繋がる振り返りを行うことで、実生活の中で主体性をもって考え行動する力が育まれるのではないかと考える。

### (4) 研究内容 (研究の方向)

- ① 生徒も教師も道徳の授業が楽しみであると思える授業づくり
- ② 対話的な学びの推進
- ③ 道徳教育を中心としたカリキュラム・マネジメントの実施
- ④ 向東小中連携教育コミュニティスクールを活かした道徳教育の推進

### (5) 検証の指標

- ① 生徒アンケートの分析
- ② 保護者アンケートの分析
- ③ 教職員アンケートの分析
- ④ 学力調査の分析

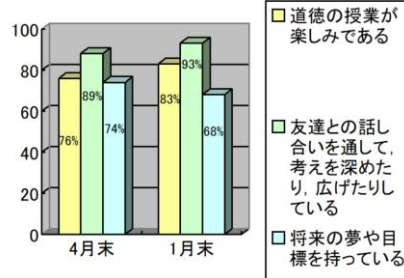
### (6) 到達目標

- ① 生徒アンケート「道徳の授業が楽しみである」によく当てはまると答える生徒の割合を50%以上にする。
- ② 教員アンケート「対話的な学びを促す、道徳的価値に迫る発問の工夫ができてい」によく当てはまると答える教員の割合を80%以上にする。
- ③ 生徒アンケート「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」によく当てはまると答える生徒の割合を80%にする。
- ④ 12月の学力調査で、全国平均を100としたときの基本問題の正答率を105とする。
- ⑤ 12月の学力調査で、全国平均を100としたときの活用問題の正答率を105とする。

## 2 研究の成果と課題等

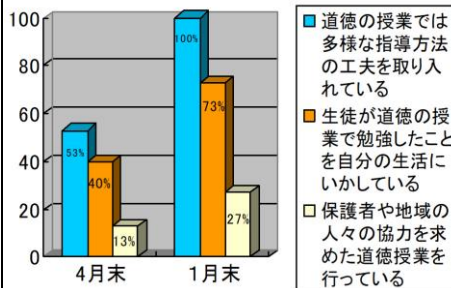
### (1) 検証結果

#### ① 調査対象：全校生徒 (令和3年度実施)



分かること  
 「道徳の授業が楽しみである」の割合は、7%増加した。  
 「道徳の授業を日常生活に活かしている」の割合は、5%増加した。一方で、「将来の夢や目標を持っている」の割合は6%減少している。

#### ② 調査対象：教職員 (令和3年度実施)



分かること  
 「道徳の授業の指導法の工夫」に関して、肯定的評価が100%になった。「生徒が学んだことを生活にいかしている」の項目も33%増加した。一方で、「保護者や地域の協力を得た道徳授業」は低い水準に留まっている。

#### ③ 標準学力テストの全国比 (令和3年度12月実施)

	2年生		1年生	
	基本問題	活用問題	基本問題	活用問題
国語	+1.4	+2.4	-2.4	-4.0
社会	-0.3	+4.9	+1.9	+2.6
数学	-4.4	-6.2	-5.2	-8.0
理科	+7.2	+8.1	-9.2	-9.0
英語	-0.7	+1.6	-3.4	-1.0

### (2) 成果

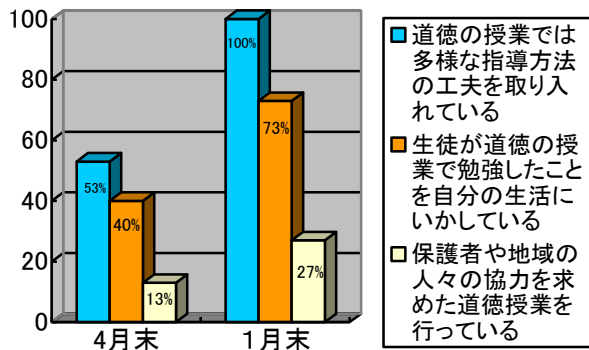
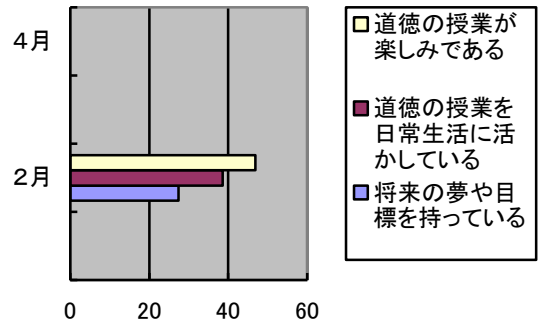
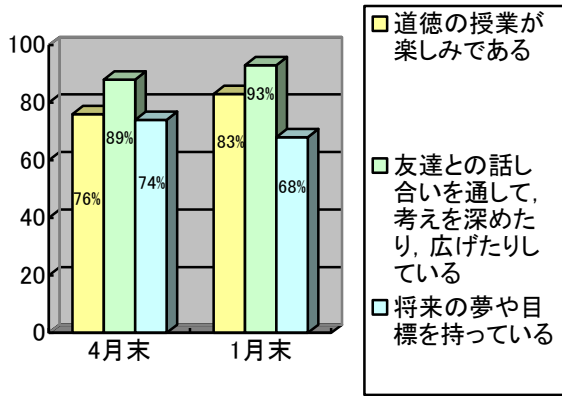
- ・道徳教育推進教師を中心に、校内で毎授業の検証会の仕組みづくりや年6回の校内研修で研究授業を行うなど組織的な研究を進めることができた。
- ・研修会には研究宣言を発行し、研修の学びを振り返るとともに指導法について校内で共有議論を図った。
- ・上記の取り組みなどによって、生徒アンケート「道徳の授業が楽しい」「話し合いを通して、考えを深めたり、広げたりしている」などで高い肯定的評価を得ることができた。
- ・教職員アンケートからも道徳の授業改善に対する肯定的評価が高まり、それか日々の道徳授業こほされ、子どもたちの満足度にも繋がっている。

### (3) 課題

- ・本校の「主体性」に繋がる「夢や目標を持っている」という生徒アンケートの項目が4月と比較して6%下がっている。
- ・地域の魅力的な体験学習や地域人材を活かした体験的な道徳授業の実施を今後進めしていく必要がある。
- ・道徳で行っている授業改善の取り組みを、各教科にさらに繋ぎ、学力の向上に繋げる必要がある。

### (4) 改善の方向性

本年度「道徳教育推進拠点地域事業」の中心校に指定され、道徳の発問作りや効果的な対話について、充実した研修から多くの学びを得ることができた。また日々の道徳授業の検証会など学んだことを授業に活かす仕組みづくりも構築することができた。来年度は、今の研究をさらに発展させ、道徳の授業改善を各教科の改善へと繋ぎ、確かな学力を育成していきたい。また、本校の学校教育目標ともつながる「夢や目標を持っている」という生徒の割合の向上に向けて、道徳の授業をはじめ、コミュニティ・スクールの強みを生かし、地域の方々の協力も得ながら全教育活動を通して高めていきたい。



**【作成上の注意】** ※次の点に注意して下さい。

- 1 上下左右の余白や本文フォントの種類等を変えない。  
(余白：上20mm 下20mm 左20mm 右20mm)
- 2 A4 1枚以内にまとめる。